

# 東京

## 「其の日」暮らし



### 関東「平野」の「坂道」

「坂道」と聞いて思い浮かぶのは、山のある風景。そこから続く坂道……。山裾の街で育った私にはそんなイメージがありました。

私の住んでいる街は「関東平野」で、山なんてひとつもないのに坂がとても多いのです。引越してきた当初は色々探検するために、自転車が大事な移動手段でした。そんな私にとって、道の傾斜はとても重要です。なぜなら坂道を見るとつい、「降りたら負け」とばかりに、ムキになって坂道に挑戦してしまうからなのです。（何に負けるかはわかりませんが）何となく降りずがんばって漕がないと！という気分になってしまふのです。無駄に体力を消耗するだけ・・・とわかっているのに。

図書館、区役所、保健所、お気に入りの商店街などはすべて坂の向こうか坂の頂上にあります。どのルートでも坂は避けて通れない。「そんな坂の一つや二つ。大げさなこと！」と思うのですが、どれもこれも「立派な坂」ばかり。頂上の町並みが見えないほどに傾斜の「立派」な坂です。

たとえば団子坂。図書館が頂上にあります。長くはないけれど急勾配のこの坂は、雪が三センチ積もると通行止めになるそうなんです。もちろん頂上は見えませんが、自転車で上っていると、だんだん足がシビレてきます。そこを頑張って坂越えをしたあとにやってくる達成感。とつても・・・満足。

区役所に行くときに通るのは、弥生坂。これは長いしきつい。何度もトライしましたが、だいたい半分で力尽きます。そして自転車を押しながらついつい「なんで関東平野なのに坂道が多いのよ？」と負け惜しみ。一人で挑んで、頓挫してるだけなのに勝手なものです。

頑張って坂道を登り切った後は下り坂が待っています。区役所に行った帰りに少し遠回りして湯島天神横の「切通し坂」を楽しみます。そこはかなり長く、傾斜もあるのでとても楽しい。大阪の谷町六丁目から天満橋にかけての坂をもう少し傾斜を付けた感じですよ。「切通し坂」を爽快な気分ですり抜けます。この爽快感。途中挫折しても、上り坂を上がり切ったから味わえる感動なのです。

後日乗ったタクシの運転手さんによると、「平野と言っても、お城を造るくらいだか



切通し坂

弥生坂

(写真提供「東京23区の坂道」)

ら谷が多いんだよ」「とのこと。「そうか。お城を守る大事な要素なのね。そういえば、大阪城のある上町台地も高台だなあ」と感心したのです。最近はのんびりと歩くかバスを使って坂を上っています。

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞